

2022 年度小委員会活動成果報告

(2022 年 10 月 12 日作成)

小委員会名	建築電気設備周辺空間等の磁気環境検討小委員会	主 査 名：川瀬 隆治 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (電磁環境運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：遠藤 哲夫
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・磁気環境の計測評価・シールド対策技術に関連した技術テーマの中で、社会的 重要性が高い、建築電気設備等周辺空間等の磁気環境に配慮した電気室の設計指 針を検討し、その統一見解を学会規準としてまとめることを目的とする。 初年度：建築電気設備周辺空間等の磁気環境に関する検討、第 4 次 WD 策定	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：川瀬 隆治 (東急建設) 幹事：宇治川 智 (鹿島建設)、久保 直也 (きんでん)、榊原 満 (オータマ)、三浦 一幸 (竹中工務店) 委員：江口 晃司 (日本電子)、榊原 宏行 (関電工)、篠 健次郎 (電機資材)、田岡 岳大 (リケン環境システム)、増原 秀樹 (日立産機システム)、	
設置 WG (WG 名：目的)		
2022 年度予算	5000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除 く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブ リックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られ た成果との関係)	1. 執筆分担の決定 執筆分担の再検討を進め、各章の分担と構成を決定した。 2. 第 4 次 WD (Working Draft) 策定 企画刊行運営委員会に移行し、日本建築学会環境規準「磁気環境に配慮し た建築電気設備等の設計指針 (仮題)」の第 4 次 WD 案を作成した。
委員会活動の問題点 ・課題	

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当委員会の主たる目標である「建築電気設備等周辺の磁気環境に配慮した建築電気設備の設計指針を検討し、その統一見解を学会規準としてまとめること」に関して、毎回の活発な審議を通じ、十分な進捗を得ることが出来た。</p> <p>結果として、日本建築学会環境規準「磁気環境に配慮した建築電気設備等の設計指針（仮題）」の第4次WD案を作成し、企画刊行運営委員会に移行した。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。